

17. 刊 行 物

17.1 観測資料を主とした刊行物

「北海道気象報文」は、測候所の沿革、観測法及び観測の統計値ならびに気象概況と異常気象の解説を内容とし、各測候所の創業から明治26～30年までを記載し、各測候所ごとの10分冊を北海道庁で発刊した。

「北海道気候一斑」は明治24年から昭和3年までの測候所と観測所の観測資料を、要素別の月刊で北海道庁が発刊した。

「北海道気象年報」は測候所の観測統計値と概況をまとめたもので、北海道庁が明治31年から昭和12年まで発刊している。

「北海道気象報告」は測候所の観測値を月刊で明治31年から同36年まで北海道庁が発刊した。

「北海道気象月報」は、測候所の観測値を統計し、概況、異常気象の報告及び気象職員の論文も掲載し、明治37年から昭和13年までを北海道庁で発刊し、昭和14年から18年までを札幌管区気象台がともに毎月発行した。

「北海道気象月報」はその後、昭和19年から24年まで中止されていたが、昭和25年から「北海道気象略表」として月刊で札幌管区気象台が発行し、気象概況と気象官署及び観測所の観測値を記載している。昭和28年からは「北海道の気象」と改名し気象協会が引き継いで発行(月刊)していたが、昭和40年には再び「北海道気象月報」として毎月札幌管区気象台から発行され現在に至っている。現在の「北海道気象月報」には、気象官署と観測所の観測値を支庁別に編集し、気象概況や気象経過図なども載せている。

「北海道地震火山月報」は昭和26年に創刊され、毎月の地震概況と火山の遠望観測及び火山性地震などを内容とし、札幌管区気象台が発行している。

「海水観測報告」は昭和33年から函館海洋気象台と札幌管区気象台が協同で作成し、1年ごとの海水業務の概要と海水災害などを記載している。

「電力気象概報(北海道地方)」は、昭和34年から札幌管区気象台と電力気象連絡会北海道地方委員会が協同で作製し、6月から9月における全道の雷の実況と、雷

雨情報や電力関係の気象災害などを内容としている。

17.2 調査・研究を主とした刊行物

「北海道気象要報」は道内の気象官署職員の行った調査・研究の結果を収め、また、気象業務に必要な総合報告や彙報などを掲載し、不定期だが年4回くらいにまとめ、昭和15年から昭和23年までの分を札幌管区気象台で発刊した。

「北部気象研究会誌」は昭和25年肥沼台長のときに第1号が出され、道内気象官署の職員が全国誌に発表した研究論文をとりまとめたもので、昭和40年の第10号からは「北部管区気象職員論文集」と改名した。

17.3 業務上の知識・技術交換を主とした刊行物

「北部気象雑纂」は昭和28年柴田台長のときから発行され、気象技術者の質の向上を目的とし、また知識・技術の交換にも役立てるために企画された。これは昭和30年に「技術時報」と改名されている。なお、予報関係では昭和32年から「予報メモ」の名で予報の大はずれの解析や技術指導の解説などを出していたが、昭和39年には「技術時報」に合併し調査課が担当している。

「札幌通信」は肥沼台長のとき昭和25年10月から部内広報用として刊行された。もともとは「予報通信」・「観測通信」という名で不定期にガリ刷で発行していたものを合併拡張したもので、編集は調査課、発行は総務課であったが、昭和26年3月からは業務課が担当している。

17.4 異常気象関係の報告物

「異常気象報告」は昭和24年から予報課が主として作り、異常気象災害が発生した都度発行している。昭和38年からは「異常気象速報」と改名した。

「札幌管区異常気象報告」は調査課が担当し、昭和37年から47年まで4半期ごとに、全道的な異常気象をまとめた。

「異常気象調査報告」は昭和38年から発行され、北海道内における気象・地象・海象などによる大災害があったとき、現地調査報告などを含めて調査課が編集発刊している。

(下田正一)